学校番号	Ｔ０１１０

平成３１年度　国語科

教科	国語科	科目	古典Ａ	単位数	２	年次	４
使用教科書	古典Ａ　物語選　改訂版（大修館書店）						
副教材等	独自プリント等						

１ 担当者からのメッセージ

・欠席することなく、積極的な態度で授業に臨むこと。
・授業は、主にプリントを配付して行う。配付したプリントは必ず保管すること。
・プリントは毎時間点検し、考査前にもそれまでの範囲のプリントを全て点検するので、板書事項は必ず記入し、保管の上復習する態度を養うこと。
・定期考査前には、試験範囲を指示するので、ポイントをしっかりおさえて考査に備えること。

２ 学習の到達目標

生徒が取り組みやすい、古文、漢文を読みこなすことを通じて、古典や漢文に触れる機会を増やし、それらのおもしろさに改めて気づかせる。学習内容を振り返る機会を作ることによって、深く理解する態度を養う。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:読む能力	c:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
主たる評価方法	出席状況 授業態度 記述の点検（プリント教材）	出席状況 記述の点検（プリント教材） 定期考査	行動の観察 記述の確認（プリント教材） 定期考査 小テスト等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４ 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c		

前期(4・5・6・7・9月)	説話・物語	教材: 『十訓抄』 「大江山いくのの道」 『伊勢物語』 「初冠」 ・音読を繰り返すことで、古文を読むことに慣れる。説話や物語の持つおもしろみを、講読を通じて味わう。説話や歌物語の書かれた時代背景を通じて、当時の生活や社会的背景を学ぶ。文脈に従って歌物語の内容を的確に読み味わい、理解を深める。	○	○	○	a: 教材に興味を持って意欲的に学習に取り組んでいる。話のおもしろさを読み取ろうとしている。当時の人々の生き方、生活や文化、ものの見方や考え方について認識を深めようとしている。「伊勢物語」や物語文学に関心を持ち、理解を深めようとしている。歌物語の和歌の役割について理解を深めようとしている。 b：文章に即して話の展開を把握している。語句や文法に注意して本文を現代語訳している。登場人物の心情や人間関係を的確に読み取っている。話の中心である和歌の内容と和歌に込められた小式部内侍の心情を読み取っている。返歌出来なかった定頼の心情を読み取っている。 c:和泉式部、小式部内侍、藤原定頼についての歴史的事実を理解している。古文のリズムに注意して繰り返し音読している。掛詞や縁語など和歌の修辞について理解している。『十訓抄』や和歌説話についての理解を深めようとしている。当時の生活や文化について理解を深めようとしている。『伊勢物語』の文学史的な位置づけについて理解を深めている。	観察 出席状況、 授業態度、 プリントの記述、 定期考査等

	日記・随筆	教材: 『更級日記』 「あこがれ」 『枕草子』 「中納言参りたまいひて」 ・「更級日記」の世界に触れ、物語作品へのあこがれと夢を抱く作者の心情を理解する。 ・「枕草子」の特色を読み取り、自らの考えを深める。 ・随筆を読む楽しさを味わう。文章の構成に注意して、主題を捉える。古文特有の意味用法を、読解通じて理解する。	○	○	○	a:「教材に興味を持って意欲的に学習に取り組んでいる。『更級日記』や作者菅原孝標の女について関心を持ち、女流日記文学についての理解を深めようとしている。『枕草子』や清少納言、また随筆文学について関心を持ち、理解を深めようとしている。作者の人柄と感性の特性を理解し、その表出である随筆のおもしろさを読み取ろうとしている。 b：本文の構成を把握し、内容や話の展開を理解している。語句や文法に注意し、文脈に沿って本文を現代語訳している。作者のものの見方や感じ方を理解している。登場人物に注意し、主語を明確にして本文を読んでいる話の内容を理解している。語句や文法に注意して文本文を現代語訳している。作者の少女時代の、物語への強いあこがれを読み取っている。敬語作者の機知とその場にもたらされた笑いについて読み取っている。敬語の種類や誰の誰に対する敬意かを的確に読み取っている。 c:当時盛行していた仏教思想について理解している。『更級日記』の作者について、文学史的な位置づけについて理解している。重要古語や古典文法について知識と理解を深めている。『枕草子』の作者について、文学史的な理解を深めている。平安時代の宮中の様子や、作者を取り巻く人間関係について理解を深めている。当時の中国文化の影響について認識を深めている。	観察 出席状況、 授業態度、 プリントの記述、 定期考査等

後期（10.・11.・12.・1・2・3月）	随筆・故事	教材: 『枕草子』 「すさまじきもの」 『方丈記』 「ゆく川の流れ」 ・随筆という文学形態における、それぞれの作品の特質を理解する。自然・人事・世相などに関する、作者のものの見方や考え方について、その特色を読み取り、自らの考えを深める。時代背景と、人間の生き方との関わりについて考える。中古中性の文学のあらましを理解する。 『故事・逸話』 「画竜点睛」 「漱石枕流」 ・漢文訓読に習熟する。故事成語の意味の成り立ちを理解し、現在の用法に慣れる、故事・逸話の叙述のおもしろさを味読する。	○	○	○	a: 教材に興味を持って意欲的に学習に取り組んでいる。『枕草子』や『方丈記』の作者について関心を持ち、理解を深めようとしている。 故事逸話の叙述のおもしろさを味わっている。現代の生活の中で用いられている故事成語についての認識を深め、自らの表現に生かそうとしている。 b：和歌に描かれた情景や本文の構成を把握し、内容や話の展開を理解している。語句や文法に注意し、文脈に沿って本文を現代語訳している。それぞれの和歌に詠まれた情景や心情を読み取っている。文章や和歌の背景となる典拠を理解している。 故事成語の元の話からどのように生まれ、使われるようになったかを読み取っている。 寓意を含む表現について、作者の意図を正確に読み取っている。リズムや抑揚など訓読の文体に注意して繰り返し音読している。 c:重要古語や古典文法を理解している。和歌の修辞法について理解を深めている。日記文学の流れを理解し、『枕草子』や『方丈記』の作者や内容、文学史的な位置づけについて理解を深めている。 漢文訓読の決まりや基本的な句法への理解を深めている。 故事成語とは何かを理解している。それぞれの語が故事成語として現在どのような意味で用いられているかを理解している。	観察 出席状況、 授業態度、 プリントの記述、 定期考査等

	漢詩	教材: 『近体詩』 「竹里館」 「江南春」 ・訓読・漢詩の修辞について理解を深める。優れた表現や描写を、読解に即して鑑賞する。それぞれの作者について、理解を深める。有名な詩句が、日本の古典文学に与えた影響について学ぶ。	○	○	○	a: 教材に興味を持って意欲的に学習に取り組んでいる。絶句・律詩の名作をより深く理解しようとしている。作者の人生観や自然観について認識を深めようとしている。 b：リズムや抑揚など訓読の文体に注意して繰り返し音読している。それぞれの詩を読み味わい、文学作品を理解し鑑賞する力を高めている。それぞれの詩に描かれた作者の心情読み取っている。それぞれの詩の作者の状況を理解している。語句の意味や主語は何か、などに注意して本文を読んでいる。何を指している語か、何をたとえている語か、などに注意して本文を読んでいる。漢詩の凝縮された表現の特色に注意して本文を読んでいる。 c:対句表現をはじめ、近体詩の形式や表現について理解している。 それぞれの詩の作者や作品背景（作られた状況や地理的背景など）について理解を深めている。	観察 出席状況、 授業態度、 プリントの記述、 定期考査等

※　表中の観点について　　a:関心・意欲・態度　　b: 読む能力　　c: 知識・理解